

アジアを中心とした 海外の鉄道人材の育成



インド高速鉄道 駅のイメージ

JICA提供

大宮総合車両センターにおける技能実習の様子

▶ 私たちが目指すこと



JR東日本グループがこれまでの鉄道事業で培ってきた膨大な知識や優れた技術を海外の鉄道事業者にも活用いただき、交通インフラを整備する「海外鉄道プロジェクト」が数多く生まれており、将来の成長に向けた新しい事業領域として力を注いでいます。

2019年4月には、アジアを中心とした国際鉄道人材の育成を目的に「JR東日本 Technical Intern Training」を開講しました。実習分野や受け入れ対象国を拡大しながら、アジア地域の持続的な経済発展に貢献していきます。

インド高速鉄道プロジェクトにおける人材育成

JR東日本グループでは、日本コンサルタンツ(株)が独立行政法人国際協力機構(以下JICA)から各種研修を受注し、インド高速鉄道プロジェクトの人材育成に取り組んでいます。今後、開業を目指して進められる建設工事と並行して、開業後に現地スタッフが自らの手で高速鉄道の運営・維持管理ができるようにすることを目標に、各種の研修等を進めていきます。

これまでに、高速鉄道の建設・運営主体となるインド高速鉄道公社の幹部等が来日して、当社の新幹線の安全で高品質な輸送サービスがどのように実現されているのかを学び、現地での高速鉄道の建設や開業準備の業務に役立てています。

また、今後は、高速鉄道開業後の運営・維持管理に重要な役割を果たすキーマンたちを対象とした研修も、日本で実施していく予定です。



インド高速鉄道公社幹部の研修の様子 (JICA提供)

国際鉄道人材の育成を目的に「JR東日本 Technical Intern Training」を開講

「JR東日本 Technical Intern Training」では、2019年4月から、ベトナム鉄道とホーチミンの日本語学校「KAIZEN吉田スクール」から合計11名の実習生を受け入れており、JR東日本テクノロジー(株)と共同で、2022年3月まで3年間指導を行う予定です。現在、大宮総合車両センターで安全教育・基礎技能教育を受けており、2019年11月頃に予定している技能実習1号検定試験の合格に向けて、鉄道車両の冷房装置メンテナンス業務を中心に、実習を行っています。実習生は当社と雇用契約を締結し実習生の賃金や福利厚生は社員と同等とするなど、法令の趣旨に合致する形で技能実習を実施しています。

2019年9月17日からは、ミャンマー国鉄から駅サービス業務や線路メンテナンス業務従事者を3名受け入れ、それぞれの専門分野における実習をスタートしました。これはJICAが窓口となり、当社と共同で実施するもので、当社で初めて、駅や線路メンテナンス職場において、OJT形式の実習を行います。また、駅サービス分野においては、東京地下鉄(株)、ひたちなか海浜鉄道(株)、東京モノレール(株)、ジェイアールバス関東(株)、(株)東日本環境アクセス各社のご協力をいただき、各社の事業所での実習も行う予定です。



鉄道博物館での開講式



実習の様子

VOICE



現地スタッフ育成を通じた国際貢献

東日本旅客鉄道(株) 国際事業本部 高安 洋

インド人の研修員たちは非常に勉強熱心で、納得するまで徹底的に質問してくるため、当初は私も圧倒されていましたが、理論立てて説明すれば理解してもらえることがわかり、最近ではスムーズに対応できるようになりました。また、研修員たちは事前にしっかり予習をしてくるので、質問のレベルも大変高度です。日本方式の新幹線技術をしっかりと学んでもらえるよう、万全を期して研修を受入れられるよう心掛けています。



日本で学んだ技術をベトナム鉄道の発展に活かす

東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 大宮総合車両センター レ・ミン・タン

私はベトナム技能実習生のリーダーを務めています。3年間の実習を通して、2つの目標を達成したいと考えています。1つ目は、与えられた業務を確実にやり車両メンテナンスについて幅広く学ぶことです。2つ目は、ベトナムでは学ぶことのできない多くのことを習得することです。

今後10年間でベトナム鉄道は、都市鉄道化や高速化等を推進していきます。そのために、私が日本で学ぶ知識や技術は重要となります。帰国後、ベトナム鉄道の発展に寄与できるよう、日々努力していきます。



アジアで活躍する鉄道人材の育成

東日本旅客鉄道(株) 大宮支社 大宮総合車両センター 志村 康行

当初は各種用語など指導に苦労した時期もありましたが、実習生の前向きな姿勢に私たちアドバイザーも刺激を受け、試行錯誤しながら指導を行っており、11名の技術習得に対する気持ちの強さと確実に上達していることを日々感じています。

今後もJR東日本テクノロジー株式会社と連携し、実習生が将来アジアで活躍する鉄道人材となることを期待しながらしっかりと指導していきます。